

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

教育・保育目標
○健康で活動的な子ども
○思いやりのある豊かな心を持つ子ども
○素直で協調性のある明るい子ども

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	・新型コロナウイルス感染症予防対策について	・全職員が感染症予防対策について共通理解を図る。 ・園児が感染症予防対策に対する習慣が身につくようにする。	・職員会議にて、行政や関係機関からの情報提供や関係書類等について説明し、園での感染予防対策を検討した。実践内容を書面にまとめ職員に配布した。 ・園児にも分かりやすいように手洗い方法を絵で表したものを掲示したり、園庭にラインを引くなど遊びの中にも感染予防対策を取り入れた。	・職員に対しては感染予防策を紙面にしたことで、共通理解を図りやすく、具体的な対策も実施しやすかった。 ・幼児クラスについては感染予防の意味等も分かりやすく伝えながら対策を実施できた。遊びの中でも工夫して、園児間の距離をとることができた。	・「学年・クラス代表者会議」で、コロナ感染予防について検討し、職員会議で情報共有している。また、感染予防策を「エンゼル認定こども園 新型コロナウイルス感染予防職員行動指針」「新型コロナウイルス感染予防対策について」に、具体的にわかりやすくまとめて全職員に配布し、職員会議でも共有し、共通理解したうえで統一した対策を実施できるよう工夫している。 ・園児にソーシャルディスタンスがわかりやすいよう園庭にラインを引いたり、手洗い方法を表した絵を掲示して説明する等、伝え方を工夫しながら、日常的に保育の中で繰り返し実施することで、遊びの中で幼児が「密です」と声かけして距離をとったり、手首まで丁寧に手洗いができるようになる等、習慣づけにつなげている。
良いとこ自慢！	(保育内容面) ・1号児や延長保育を利用している保護者には、日々の様子を伝える機会が少なかった。また、お迎え時に話をするだけでは保育者側の思いや子どもの様子が保護者に伝わりにくいことが多かった。	・ドキュメンテーションの充実	・子どもの楽しそうな姿、意欲、工夫などが感じられる姿を「見える化」することで、子ども、保護者、保育者とのコミュニケーションを図る。 ・読みやすさ(字体・大きさ)や見やすさ(イラスト・写真)、年齢に合わせた見せ方(3歳児なら話し合いは難しいので取組に対する反応に視点を置く等)を工夫しながら、子どものつぶやきや、楽しい発見を取り入れて作成する。	・お迎え時間に関わらず、ドキュメンテーションを通じて園での子どもの様子が保護者にもわかりやすく伝わり、子どもが掲示の前で語る姿や保育者の言葉添えて三者で園の様子、子どもの思いを共有する場面が増えた。 ・10の姿に結び付けてできるようになった。	・これまでのように行事に参加することで自信をつけることもあるが、普段の保育の中での活動をより充実させ、子どもたちが主体的に活動に参加することによって、自尊心が育まれていると感じられる。今後は職員間の意見交流や保育の交流を通して、お互いを大切にする保育とは何なのかを深めていっていただきたい。
	(管理・運営面) ・消毒や清掃をする機会が増えていることから、消毒液等の確保や消毒・清掃について職員間で連携をとっている。	・効率よく消毒、清掃を行おう！	・各クラスで職員や園児がよく触るところや粉塵等が集まりやすい箇所などを日常的に話し合いを行った。 ・物品の注文は園全体でまとめてファイルで管理した。	・施設全体を消毒すればいいのではなく、効率よくどの箇所を特に消毒・清掃すればいいか、各職員が意識して行動に移せるようになった。 ・物品の管理も誰が見てもわかるようにしているのて、補充等がスムーズになった。	・クラス内で子どもがよく触る場所を職員間で話し合っ把握・共有し、ドアノブ・壁・おもちゃ・ロッカー・テーブル・椅子等具体的に提示し、重点的に意識して消毒を行っている。 ・「物品注文リスト」で注文状況を把握し、消毒液・石鹸等の在庫・補充を園全体で一括管理することで、必要なものを効率的に行えるようになった。
ここを改善！	(保育内容面) ・日々の保育の振り返りの時間が少なく、行事に向けての保育の取り組みになりがちで、子どもも主体で進めていく難しさがあつた。	・子どもが主体となり、友だちと思いや考えを出し合いながら、イメージを共有して遊ぶことを楽しむ	・「どうしたいのか」「なにがだめなのか」を友だちに伝えたり、自分の考えを全体で話し合うことを楽しむ。 ・経験の中から、みんなで工夫しながら一つのものを作る楽しさを味わう。 ・イメージしたものを友だちと共有したり、膨らませたりしながら、様々な方法を考えたり、失敗しても前に進むための話し合いを大切に、みんなで作る工程を楽しむ。 ・小さなルールや約束事を作っていくことで、約束を守ろうとする。	・話し合いの時間を大切にすることができた。 ・自由遊び・自由制作の時間をゆったりと取ることで、自分の意見を言う経験をたくさんしたり、友だち同士のやり取りの中での遊びの工夫が見られた。 ・運動参観では例年の運動会とは違う形にはなったが、体系移動などにこだわらず、子ども達の好きなダンスを披露したり、リレーの順番を当日の話し合いで決めるなど園での普段の様子を伝える事ができた。	・どの年齢においても子どもたちの意見や気持ちを活動に反映させるような保育が増えつつあり、主体的に生きる力が芽生えている。相談しながら遊びを創りあげていく場面が見られ、子どもたちに意欲がしっかりと出ていることが窺われる。考えてする活動も増えており、保育者の間で遊びが継続するように努力する姿勢が見られる。 ・これまで以上に、子どもたちが遊びを通してお互いに関わり合う場面が多く見られるようになった。友達と共通の目的をもって活動を進めることが取り入れられ、意見を出し合いながら話し合う姿があり、社会性を培う基礎となっていると思われる。
	(管理・運営面) ・感染予防対策と熱中症予防対策を同時に行うことが難しくなっている。	・気温や湿度、子どもや職員の状況を確認しながら感染予防対策や熱中症予防対策を行う。	・施設の換気設備(24時間換気)を利用しながら、気候や保育室の利用状況に合わせて換気を行っていく旨を職員会議で検討した。 ・子ども、職員ともに水分補給の声掛けをする。	・職員が気温や湿度等を意識しながら換気を行えるようになった。今後は寒くなっていくので、暖房設備も利用しながらうまく換気を行えるかが課題である。 ・子ども、職員とも喉の渇きに関わらず水分補給する習慣が身についた。	・各保育室に温湿度計を設置し、各職員が温度・湿度の確認・管理を意識し環境整備に取り組んでいる。24時間換気システムを使用し、また、定期的に窓の開閉を行い換気に努めている。外遊びの際に窓を開けて空気の入替えを行う、暖房設備を使用しながら換気を行う等、寒さ対策と併行しながら感染予防を行えるよう取り組んでいる。 ・夏場は水遊び・シャワーを少人数ずつ行う等遊びを工夫しながら、暑さ・3密を避ける取り組みを実施した。おもちゃを多めに出して分散して遊ぶ・外遊びの時間を多く設ける等の工夫も行った。また、熱中症対策のため、外遊びの際は水筒を園庭に置き、こまめに声かけして水分補給を促した。秋・冬は空気の乾燥を考慮して、水筒持参の継続について協力を依頼をする予定であり、季節に応じた感染予防に努めている。